

令和5年度小松市立国府小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p><積極的生徒指導を継続的に行い、主体的に安心できる学校をつくらうとする力を育てる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国府っ子学習のきまり」をもとに授業規律を徹底し、安心して学習できる雰囲気をつくる。また、やかたシートにより学級目標の設定とふり返りを継続的に行い、年間を通して学級目標に迫る。 ・仲間づくり（ハートフルタイム）の取組を行い、教師と児童・児童と児童をつなげるリレーションづくりを行う。年間で計画を立て、学期始めの月（4・5・9・1月）に2回程度行う。 	<p>[国府っ子のきまり・やかたシート]</p> <p>国府っ子のきまりでは、学年はじめの一週間で授業規律を徹底し、安心して学習できる雰囲気・環境づくりを行うことができた。2学期以降は各学年の実態に応じて目標を設定したい。時間とともに意識の低下が見られるので、やかたシートの取り組みと連携し、よりよい学級への意識を高め、学級での取り組みと個々の頑張りをやかたミーティングで共有し、学級力の向上に努めていきたい。</p> <p>[ハートフルタイム]</p> <p>実施時期を児童が不安定になりやすい休み明けに設定して実施できよかった。各学級で取り組んだ内容を蓄積し、様々な活動ができるようにしていく。</p>	<p>[国府っ子のきまり・やかたシート]</p> <p>国府っ子のきまりでは、2学期は各学年の実態に応じて4つのきまりを基本に目標を設定し実施した。3学期は学年の必要に応じて実施することで、年間を通して学期はじめに学習規律を整えて、安心して学習できる環境とすることができた。また、やかたシートでは、2学期にスポフェスを中心にして取り組むことができた。3学期は学年の終わりに学級のまとめとして学級目標に近づけるように取り組むことができた。年間を通して継続的に利用し、学級目標へ近づこうとすることで学級力の向上につながった。</p> <p>[ハートフルタイム]</p> <p>リレーションづくりの活動を「KOKUFUトーク」として、小中連携して取り組むこととした。年間を通して取り組むことで、安心して学校生活を過ごせることにつながった。</p>
	<p><児童会活動を通して、元気と笑顔あふれる学校づくりに児童が主体的に取り組む></p>	<p>[たてわり活動]</p> <p>1学期は6年生が中心となって、国府っ子タイムに2回実施できた。6年生児童は1回目に計画・実行の仕方を知り、2回目からは各たてわり活動班で工夫した内容を考え、「ねらい」をもって主体的に活動することができた。2学期からは、5・6年生で協力して実施し、3学期には5年生に引き継げるように取り組んでいく。</p> <p>[やかたミーティング]</p> <p>7月に、たてわり活動班による1学期のふり返りの「やかたミーティング」を実施できた。児童一人一人が学級目標の中で特に力を入れたことやその理由などを発表し、互いの高まりを認め合うことができた。元気と笑顔あふれる学校づくりに向けて、児童主体のやかたミーティングでの話し合い活動をより充実させていきたい。</p>	<p>[たてわり活動]</p> <p>1年間に5回の活動を実施した。6年生が遊びの内容を主体的に考えて実行することで、自覚や自信を高めるとともに、達成感や満足感を実感することができた。下級生は、高学年の様子を見て、学校生活の場面であこがれる高学年の姿に近づこうとしていた。</p> <p>[やかたミーティング]</p> <p>当初の計画通り10月と1月に実施できた。「スポーツフェスティバルのふり返り」と「や・か・た・の意識の引き継ぎ」を行った。たてわり活動班を活用し、さらにその班を低・中・高学年に分けたことで、一人一人の発言を増やすことができ、自分や仲間の高まりをより実感させることができた。担任による事前・事後指導の充実により、児童主体の話し合い活動になっていった。</p>
	<p>[たてわり活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流を通して高学年のリーダー性を育むと共に、より良い活動をするために考え工夫できる機会とする。また、たてわり活動の目標をもとに、国府っ子タイムの時間に年間6回たてわり遊びを行う。 <p>[やかたミーティング]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画運営委員会を中心に、学校をよくしようという思いを全校で共有し、仲間のよさを認め合う場とする。学期に1回やかたミーティングを行う。 		
特別支援教育	<p><支援を必要とする児童に対して組織的な支援を図る></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期1回（6月、10月、2月）に特別支援教育校内支援委員会全体会を行い、実態把握・指導支援についての検討及び共通理解を行う。 ・個別の教育支援計画を作成しなければならない児童には担任が保護者と懇談の機会を持ち、作成する。（1学期前半）また、2学期末以降、年度内に次年度の目標について再び保護者と担任と話し合い方向性を決めておき、次年度に申し送る。 ・外部機関とも連携を取り支援を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期中に校内支援委員会全体会を行い、実態把握、共通理解を行った。 ・昨年度から継続して支援の必要な児童については、スムーズな引継ぎにより、1学期前半に個別の教育支援計画を立てることができた。 ・困難が見られる児童には適宜、校内支援委員会を開き、外部機関ともつながりながら、検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の個人懇談の機会に今年度の個別の教育支援計画のふり返りと次年度の目標の検討を行った。 ・個のニーズに応じて、専門相談、教育研究センター等と連携し、支援を行った。 ・特別支援教育支援員を含む校内での支援体制を適宜構築した。 ・校内支援委員会を行い、支援について検討し職員間で共通理解を図った。
道徳教育	<p><発達段階に応じた道徳教育を推進する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップをもとに、発達段階を考慮して、重点目標と各教科、特別活動を関連させて道徳教育を行う。 ・授業公開やファミリートークの機会を設定し、家庭・地域との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月末にカリキュラムマップをもとに、指導内容を振り返るとともに、各教科との関連を確認し、今後の授業計画を立てることができている。 ・授業公開やファミリートークは2学期に実施する予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に全学級でファミリートークを行った。学校で友達と考え、話し合ったことを家族ともう一度話し合うことで、児童がさらに考えを深めることができた。 ・ファミリートークの取組や感想を載せた道徳通信を家庭に配付したことで、学校での道徳教育について知ってもらうことができた。
読書教育	<p><読書量を確保し、読書の質的な向上を図る></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書担当と図書館司書が連携を図り、読書オリンピックや多読表彰、図書委員会主催の取組を行い、読書の量的・質的な向上を図る。 ・月ごとの貸出冊数データを利用し、学級担任が月1回読書指導を行い、全員月に5冊以上本を借りるようにする。 ・「本のとびら」から選定した各学年の課題図書4冊を1年間で読了する「読む4」の取組を行い、各学期末毎に学級担任と図書担当が読了状況を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの5、6月に図書館に足を運びきっかけづくりとして「読書の花を咲かせようキャンペーン」を行った。たくさんの児童が企画に参加し、図書館を身近に感じてもらうことができた。 ・児童のおすすめを基にしたコーナーを作り、質的な向上を図った。 ・担任と連携し月に5冊未満の児童については声かけをしてもらう。 ・「読む4」は例年より取り掛かりが早く、取り組みが定着している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会主催の取組を年間を通して行うことで、児童の読書意欲を継続させることができた。また、分類を意識して本を選ぶ児童が増え、読書の質を向上させることができた。 ・1学期は5冊以下の児童が各クラスに見られたが、2学期以降はどのクラスも5冊以上を達成できるようになってきた。 ・「読む4」の達成率は学校全体で94.5%だった。各学年の課題図書をほぼ全員が読了することができた。
保健健康教育	<p><心身の健康や運動に関心をもち、健康への意識向上を図る></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導や保健委員会の活動を通して、感染症予防や健康な体づくりに取り組む。 ・体育委員会を主に「レッツスポチャレ」の企画に取り組み、年間を通して運動する機会を作り、体力の向上を図る。 ・心の健康や親子のコミュニケーションについて、育友会と連携し、学校保健委員会で取り上げ、考える機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体計測時や集会時に保健指導を行った。また、6月には歯の衛生指導を行った。 ・「40メートル走」「シャトルボール」のスポチャレ練習会を行った。また、各学級の記録を掲示し、目標記録を達成したクラスにはシールを貼るなどして意欲向上を図った。 ・学校保健委員会に向け、「親子のコミュニケーション」についてのアンケートを作成し、児童と保護者それぞれにアンケートを行った。結果は、今後考察し、学校保健委員会で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体計測時や集会時に保健指導を行った。 ・スポチャレ練習会を行い、全クラスが全ての種目の記録をとることができた。ブロンズを目指して頑張り、記録会にむけて取り組むことができた。 ・学校保健委員会は「親子のコミュニケーション」をテーマに実施し、例年を上回る保護者の参加があった。事後には、児童保健委員会作成の「さわやかなコミュニケーション動画」の視聴を通して学びを深め、冬休みには家族で「あるあるタイム」「ありがとうタイム」を企画し、親子のコミュニケーションの一助とすることができた。
情報教育	<p><ICTの積極的な活用を図る></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「GIGA校内研修年間計画」に基づき、研修を深める。 ・教員はICT活用の意図を明確にして授業をデザインすることができるように、授業実践や研修を積み重ねる。 ・児童は学習の目標達成のためにICTを活用し、自分の学び方を選んだり、学習を深めたしながら、自らの学びの質を向上することができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「GIGA校内研修年間計画」に基づき、研修を深めている。1学期は授業交流週間を設け、教員はICTを活用した授業を公開し、授業のねらいを達成するための活用方法を学び合った。 ・9割の児童は、学校や家庭で学習用端末を使って学習していると回答している。これからも効果的な活用の仕方を指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「GIGA校内研修年間計画」に基づき、研修を深めることができた。2学期は低・中・高ブロックごとに授業実践を交流し、効果的な使い方を研鑽し合った。教員は授業のねらいにせまるために、効果的にICT機器を活用することができるようになってきている。 ・ほぼ100%の児童が、学習用端末を活用し、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用していると回答している。さらに個別最適な学びが実現できるように学習用端末を効果的に活用させたい。
家庭・地域との連携	<p><家庭・地域の力を生かした教育活動の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域の力を生かした活動を教育課程に位置づける。 ・準備段階から目的を意識して、地域の自然や文化について学ぶ機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動では、多くの地域人材を活用して、児童の学習意欲の向上を図ることができた。 ・家庭学習プラス週間では、家庭での学習の進め方を保護者に周知することができた。 ・地域を活用した校外学習では、5年生の田植え体験や6年生のツバメ調査、2年生の町探検（桜生水、虫塚）等地域の方との触れ合いの場をたくさん設けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動では外部講師に年間を通して来校していただき児童の意欲、技能向上に寄与していただいた。来年度も是非続けていきたい。 ・1200年祭関係で沢山の方々から国府地区の良さを聴くことができ、国府校区に対する愛着を深めることができた。 ・家庭学習プラス週間、家族読書、計算カード、音読課題等について、家庭と共通理解を図りながら取組を行うことができた。

学校関係者評価	<p>(第1回 学校評議員会より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習用端末の持ち帰りで家庭学習を進めることは良い。 ・給食の偏食対応は、個別に対応するようになり、無理して食べさせないようにできると良い。 ・残業時間については、仕事の分散化を進め、忙しい時期やそうでない時期を設け、年間を通じて均していけると良い。 ・学習用端末を持ち帰る際、ランドセルが重くなる。教科書等の持ち帰りについて配慮していけると良い。 ・今年の夏はとて暑く、自由プールに入れる日が少なかったが、安全を重視して取り組めると良い。 <p>(第2回 学校評議員会より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ活動が盛んである。今後も継続して取り組めると良い。 ・集団登校において、1人2人遅れてくる児童がいるので、登校班等、組織で対応できると良い。 ・家庭学習について、子ども達が意欲的に学習するような手立てを考えるとともに、家庭と連携して取り組むことができると良い。 ・1200年祭関係の行事があり、国府地区への愛着が深まってきている。地域の施設や遺跡、桜生水音頭等を今後も活かしていけると良い。
---------	--